

算数

ひきざん

竹園東小学校 1年1組
授業者 佐藤 栄子

本時の目標

13-9の計算の仕方について、いろいろな方法解決していく中で、10のまとまりに着目して考えることのよさに気付くことができる。

■ 単元の目標

- 11~18から1位数をひいて繰り下がりのある計算のしかたを進んで考えようとする。
- 18までの数の構成や10の補数に着目して計算の仕方を考えることができる。
- 11~18から1位数をひいてくり下がりのある減法計算ができる。
- 11~18から1位数をひいて繰り下がりのある減法計算のしかたを理解することができる。

■ I C T 活用の視点

○ 確かな学力をはぐくむために

1年生の発達段階では、言葉だけで自分の考え方や思いを表現したり、友だちの考えを聞いて理解していくことは難しい。答えを導き出す時に「どのようにひけばよいのか」という児童の考え方を視覚的に表し、学び合う中で思考力をはぐくんでいきたいと考えた。

そこで、書画カメラを活用して、計算の仕方を発表する際に、ブロック操作やワークシートに書いたことが視覚的にはっきりと映し出せるようにし、聞く側によく分かるようにする。はっきりと分かることが基礎基本をはぐくことにつながっていくと考える。

○ 学び合い高め合える意見交流活動をするために

児童は、数え引き、減加法、減々法など多様なアプローチで問題を解決していくだろう。その解決法を書画カメラを活用して映し出し、どのように導いたのかをみんなで考えていくようにする。また、映し出された多様な解決法を見ながら、「どの方法を使うと簡単に計算ができるか」という問い合わせをもってみんなで意見を交流し合い、10のまとまりに着目して考えることのよさに気付き、学び合い高め合う喜びを味わえる授業づくりを目指していきたい。

■ 本時の授業の概要

本時は、初めて繰り下がりのひき算を学習する。児童は、ブロックを使ったり図に書いたりして計算の仕方を多様に表出すると考える。その考え方を発表する際に、書画カメラを活用して数の操作を視覚的に映し出し、みんなで意見交流をしていく過程で10のまとまりに着目した計算の方法へと導いていくようにする。

学習活動	指導上の留意点
1. 本時の学習課題をつかむ。	どんぐりが13こあります。 せいいかつで9こつかいました。 どんぐりは、なんこのこっていますか。
2. 自力解決を行う。	計算の仕方を考えるときは、自分の考えた方法をブロックを使って動かしたり、ワークシートに図を書いてたりして求めるように助言する。 <ブロックを使って> <図を描いて> ア. 13から1つずつひいていく。 (かぞえ作戦) □□□□■■■■■■■→ ■→ ■→ ■→ ■→ イ. 9を3と6に分けてひく。 □□□□ ② ■■■■■■■→ ① ■■■→ (ひきひき作戦) ウ. 10のまとまりから9をひく。 (ひきたし作戦) □ ■■■■■■■■■■■→ □□□
3. 話し合い、考え方を高め合う。	書画カメラを活用し、どのように考えたのか分かるようにブロック操作を映し出し、その考え方を説明をしていくようする。 それぞれの考え方のよさや共通点、相違点などがよく分かるように書画カメラを使ってア、イ、ウの考え方を映し出す。
4. 本時のまとめをする。	ア、イ、ウの考え方を比べながら、気付いたことを積極的に発表できるように普段から指導し、学び合う雰囲気を高め、10のまとまりに着目できるように支援する。 ・アの1つずつひくのは簡単だけど時間がかかる。 ・イの9を分けてひくのは難しい。それよりウの10からまとめてひいた方が簡単。